



## 新月会有志によるハンガリー・クロアチア「U Boj」ツアー



赤松正昭 (社会昭41、高等昭37)

新月会(グリークラブ OB 合唱団)創立 80 周年を記念し、9 月 3 日から 12 日まで「U Boj」(ウ・ボイ)の故郷ハンガリーとクロアチアを訪ねた。「U Boj」は、1919 年以來、関西学院グリークラブが歌い続けている名曲である。船の修理のため神戸に逗留したチェコ・スロバキア軍兵士からグリークラブに伝えられたこの曲のルーツについては、『関西学院史紀要』やグリークラブのウェブサイトで紹介されている。

今回のツアーの発端は、ニューヨーク在住の門田好正さん(経済昭 39) [写真左]が現役時代からの夢であった「U Boj」のルーツを求め、2009 年にハンガリーの地方都市シゲットバールを訪ねたことに遡る。シゲットバールでは、毎年 9 月第一週の金、土、日にオスマントルコから祖国を守った英雄ズリーニ(クロアチア語でズリンスキー)将軍を顕彰し、ズリーニ祭が開催されている。門田さんは、その祭りのさなか、「U Boi, U Boj」とろずさみながら英語の通じる住民を探し求め、街を歩いた。そして、フィンランドの小学校で音楽を教えている地元出身の女性エヴァ・パンデューさん [写真右]と出会ったのである。彼女の紹介により、市長室を訪ねた門田さんは、持参のカセットテープ(新月会による「U Boj」の演奏)をヨーセフ・パイツ市長に差し出した。演奏に耳を傾けた市長は幾度もうなずき、赤ら顔をますます赤くした。それから、英雄ズリーニのメダルを門田さんに手渡すと、こう言った。「いつの日か、関西学院グリークラブ・新月会を連れて来てシゲット城内で『U Boj』を歌って欲しい」。残念なことに、パイツ市長は翌年亡くなられたが、その約束を果たせる日がようやく来たのである。



ここで、ズリーニ将軍と「U Boj」の関係を簡単に説明しておこう。1566 年夏、イスタンブールから大軍を率いて北上したオスマントルコの第 10 代スルタン・スレイマン 1 世(大帝)はハプスブルグ家の都ウィーンを目指した。シゲットバールは丁度その中継地に当たる。トルコ軍兵力 3 万から 10 万人に対し、ズリーニ率いるハプスブルグ軍はわずか 2,500 から 4,000 人。城に立てこもった将軍ズリーニは、時にゲリラ戦を挑み、オスマントルコを苦しめたが、次第に敗色が濃くなっていった。大帝は使者を送り、降伏を迫ったが、ズリーニは拒否。残り 300 人まで減ったハプスブルグ軍は 9 月 7 日、城門を開け放ち、決死の攻撃に出た。「U Boj! U Boj!」はその闘(とき)の声だった。実は、その前日宿敵スレイマン大帝は陣地内で病死していた。オスマントルコは戦いには勝ったが、大帝の死によりウィーン侵攻を断念し、イスタンブールに引き返した。300 年後、クロアチアの作曲家イヴァン・ザイツが「U Boj」を作曲し、ズリーニ将軍を描いたオペラの山場にこの曲を織り込んだ。自らの命を犠牲にオスマントルコの行く手を阻んだズリーニ将軍は、クロアチア、ハンガリー両国で国民的英雄として今も尊敬されている。イスラムのヨーロッパ大陸北上を阻止したという点からも、大きな意味を持つ戦いであった。



9 月 3 日、新月会有志 10 名とサポーター 6 名、そして 22 年の長きにわたって現役グリークラブを支えていただいている同窓会高槻・島本支部からの 16 名に、大阪のクロアチア名誉領事館の山崎エレナさんを加えた計 33 名が関西空港からイスタンブール経由でハンガリーに出発した。2009 年以來、毎年ご夫妻でズリーニ祭に行っておられる門田氏も、もちろんニューヨークからハンガリーに向かわれた。



9 月 6 日、ブダペストを経てシゲットバールに到着。市長歓迎式典終了後、「U Boj」を初披露した。地元テレビ局のカメラが回る中、大きな拍手が沸き起こった。夜には市長夫妻による歓迎夕食会が催され、新月会もステージに立った。ここでは、「U Boj」のほか、「赤とんぼ」「上を向いて歩こう」を披露した。

翌 7 日は、午前 10 時にトルコ・ハンガリー友好記念碑に到着。周囲はひまわり畑だった。ズリーニ将軍とスレイマン大帝の像の前に、シ

ゲットバール市とチャコベッツ市(クロアチア)の衛兵が左右に並び、ブラスバンドによる伴奏の中セレモニーが始まった。国歌斉唱の後、市長、来賓の挨拶。セレモニーはトルコ、クロアチア、シゲットバール市の3者の献花を最後に30分で終了。ここで衛兵たちと全員で記念撮影した【前頁下】。

午後は、歩いて音楽学校に向かい、合唱交歓会。新月会は「Old Kwansej」「赤とんぼ」「U Boj」を歌い、先方は4曲歌った。何か一緒に歌える曲はないかと鳩首会議(それほどオーバーなことではなかったが)をして、ハレルヤコーラスを合同演奏。ピアノ伴奏をサポーターの山田由香里さんをお願いした。彼女がこの旅行に同行してくれたのは幸運だった。歌い終えて両者満足顔。お別れは「God be」を英語、日本語で。しかし、「U Boj」を歌った時の彼らの反応が今ひとつ盛り上がらないのはなぜだろう。不思議だ。これはここだけのことではない。

夜は、シゲット城址に向かい、VIP席に案内された。午後8時、今回のズリーニ祭のメインイベントである献花式典が始まった。花火でオープニング。特設ステージでシゲットバール市長や関係者の長いスピーチの後、トランペット、トロンボーンでトルコ行進曲演奏。続いて、新月会が「U Boj」を歌い、参列者から万雷の拍手を受けた。最後の献花では、1組ずつ名前が呼ばれ、馬上のズリーニ将軍の像に花を捧げた。12組の内、私たち日本人の献花は、門田好正さん、尾田義行さん(旧中昭22、文学昭27)、高槻・島本支部長石川宏さん(経済昭35)の3組だった。フィナーレは再び花火の乱舞で、夢のようなイベントはあっという間に終わった。この様子はYouTubeで見ることができる。  
<http://www.youtube.com/watch?v=eM0DrRvWJes>

8日昼前、クロアチアのチャコベッツ市到着。1548年に建てられた城を訪れ、スチエパン・コヴァチ市長にお会いした。この市長は、トム・クルーズばりの惚れ惚れとするいい男だった。昨日、シゲットバールで会った衛兵隊長は今日は馬上の人になっていた。

ズリンスキー(クロアチアに入ったので、これよりクロアチア語の発音で表記)は名家で、チャコベッツ城主を150年務めた。ところが、その活躍を快く思わないハプスブルグ家からハンガリーに派遣された。それがシゲット城である。彼が単身シゲット城に向かう時、妻エレナに書いた情熱的な手紙は数ヶ国語に翻訳されている。

この城址で6人の男声コーラス、ズリンスキー合唱団が「U Boj」他を歌った。「U Boj」を歌ったソリストはプロだそう。私達は「Old Kwansej」「野ばら」「U Boj」を歌った。城門から出て、近くの公園のズリンスキー像の前で合唱団の6人と一緒に「U Boj」を再び歌った。ここで出会った、俳句に造詣が深いズリンスキー衛兵協会会長のソボチャネツさんは、この歌は日本の「武士道」と同じだと語った。

その後、バスで15分走り、ドラバ河を渡った。かつてはここがハンガリーとクロアチアの国境であった。マリア・テレジアはここが好きだったらしい。ヴァラジン村のレストラン「金のガチョウ」で、ズリンスキーのレシピに基づいたニョッキを昼食にいただいた。歴史博物館を見学し、首都ザグレブに到着したのは午後6時前だった。ザグレブ空港からドブロヴニクに飛んだ。

9日は雲ひとつない快晴だった。ネクタイ博物館長デニスさん(ネクタイの起源は、クロアチア戦士が美しいスカーフを首に巻くのを伝統としていたことに遡る)の案内により高台にあるホテルを出発し、バスで旧市街におりた。観光地であるドブロヴニクは、首都ザグレブより物価が4倍高いそうである。

午前10時前、ルジャという建物の中で地元混声合唱団リベルタスと発声練習とリハーサル。それから、大聖堂前で「並び」のリハーサル。その後、市役所でアナ・ヒヂ文化大臣【写真右、左は筆者】に面会した。「リベルタス合唱団といっしょに歌われることを喜んでます。95年間『U Boj』を歌い続けてくださって嬉しく思います。発音は易しくないで、きっと大変だったでしょう。ドブロヴニクは文化遺産が多いので、ゆっくりお楽しみください。今日の皆さんの演奏はテレビで全国放送されます。今日がドブロヴニクを訪問する最後にならないよう、いつでもまたお越しください」。文化大臣は絶世の美女で、一同緊張。ここで、「ステンチェン」を歌った。

11時5分、大聖堂の階段に並び、大勢の聴衆を前に新月会が「Old Kwansej」と「野ばら」を演奏。リベルタス合唱団が「La musica di Notte」と「Jedan Grad」。そして合同で「U Boj」を歌った【写真下】。テンポは私たちより早い。最初のリピート部分「ウボイウボイマキストカブラッチョ、ナユンチャカコムレモニ」と最後の「ザードーモヴィーヌ、





ミーチコリカスタート」は男声ソロだった。演奏後、国営テレビ他のインタビューを受けた。

<http://youtu.be/hq4TsF6MWiM>

[http://youtu.be/5Ue-TLSRbVc\\_](http://youtu.be/5Ue-TLSRbVc_) (ドブロヴニク大聖堂での YouTube)

午後は旧市街観光。14 世紀に建てられたフランシスコ会修道院には、今も営業しているヨーロッパで 3 番目に古い薬局が併設されていた。そこから北門まで歩き、ケーブルカーでスルジ山(412m)に登る。ここから眺める旧市街の景色は旅行ガイドブックによく紹介されている。まさに「アドリア海の真珠」にふさわしい景観だった。全員大満足。

10 日は朝早くホテルを出発し、正午にスプリット市到着。昼食後、2008 年に関西学院大学と協定を結んだスプリット大学訪問。創立 40 年の、クロアチア第 2 の大学である(12 学部に教員 1,600 人、学生 20,000 人)。昨夜、ドブロヴニクでの演奏がテレビ放映されていたとブランカ・ラムリヤク副学長[写真右、左は尾田義行さん]が挨拶された。「U Boj」空の翼を歌い、全員で記念撮影。その様子は同大学のウェブページ、facebook でも紹介されている。

<http://www.unist.hr/novosti/foto-galerija/emodule/2592/egallery/7>  
<https://www.facebook.com/video.php?v=527048524094690>

11 日、同行されているエレナさんから、クロアチアのテレビ、新聞が新月会の演奏を大きく取り上げていることを知らされ、驚嘆した。再びザグレブに到着し、昼食後、ネクタイ専門店として有名なクロアチア社の渉外部長ラナさんに導かれ、衛兵が待つトミスラフ広場(旧市街の一番にぎやかな場所)へ移動。小雨の中、そこからショッピングモールにあるクロアチア本店前まで約 200m を衛兵に続き、新月会ペナントと日の丸の小旗を振って行進した。こんなことをするとは全く予想外だった。たちまち人垣ができた。井出敬二駐クロアチア特命全権大使も来ておられた。クロアチア社フランヨ・ブシチ CEO(社長)の挨拶があり(新月会創立 80 周年を記念し、お揃いのネクタイを新調したが、それはこのクロアチア社のものである。きっとそのことも紹介されたのだろう)、衛兵を後ろに控えさせ、レッドカーペットで約 200 人の聴衆と 4 台のテレビカメラを前に、「U Boj」「遙かなる友へ」「Old Kwansei」をハモった[写真下]。というのも、ここはアーケードの中なので、とてもよく響くのである。聴衆から期せずして「U Boj」のアンコール催促があり、もう一度熱唱した。この曲を歌っている時、不思議なことに気がついた。歌詞のある箇所でのみ、聴衆が手を叩くのだ。それは、「ヤデシナスボイサドクレーツェ」(息子たちは皆、お前のために戦に向かう)の箇所だった。

<http://youtu.be/gJyxA9szd8E> (クロアチア社前での演奏)  
<http://www.hr.emb-japan.go.jp/JP/nikokukan/u-boi.html> (在クロアチア日本国大使館)

あとで聞いてみると、「U Boj」は小学校で習っているそうである。ハンガリーで歌っても、今ひとつ反応が鈍かったが、ここクロアチアでは熱狂的な拍手があるのはこのせいであることが分かった。テレビのインタビューも 4 局までは覚えている。「どうしてこの歌を知っているのですか?」、「日本ではこの歌はポピュラーですか?」、「この歌詞を覚えるのにどのくらい時間をかけましたか?」、「今日の聴衆の反応をどう感じましたか?」等々。

最後の訪問先は、ホテル「プンティアール」。オーナーのズラテュコ・プンティアレさんが、今年 5 月に見つかった「U Boj」とオペラ「ズリンスキー」全曲の 100 年前のスコアを見せたいと、私たちに招待してくださった。曾祖父は大変なコレクターだったそうだ。ホテル内部には高そうな絵や古い写真が所狭しと飾られていた。スコアのコピーをありがたく頂戴したお礼に、ホテルの螺旋階段で「U Boj」を歌った。このホテルでいただいた料理は、ズリンスキーのレシピを使ったものだった。白ワイン、赤ワイン、いずれも文句なし。料理は甘酸っぱいサルマ(クロアチア風ロールキャベツ)、デザートはズリンスキーの大好物、リンゴにシナモンで、1813 年のレシピだそうだ。



「歌はすごい、言葉は通じなくても共に歌えば心は通じるということを目の当たりにし、我々高槻組は大きな感動を得ました」。帰国後、同窓会高槻・島本支部の参加者からこのような感想を頂戴した。クロアチアからは次の連絡を受けた。「新月会が『U Boj』を歌ったことが 34 以上のメディア(テレビ、新聞)で取り上げられています。新月

会の演奏会はいつ、どこで開かれるのか、CD はどこで入手できるか等、大騒ぎになっています」。日本、ハンガリー、クロアチアの多くの方々の協力を得て、「U Boj」を 15 回も歌った今回の旅は、新月会創立 80 周年、関西学院創立 125 周年に相応しいものになった。

ツアーの成功を願い、学院史編纂室が新月会と協力して作った英文小冊子「U Boj U Boj」 and Kwansei Gakuin Glee Club の Special edition (クロアチア語要約付き) が、現地でお役に立ったそうです。ご希望の方にお付けしますので、学院史編纂室までご連絡ください。

